

波郷記念館だより

第三十号

*石田波郷記念館企画展

「石田波郷と清瀬」展特集

★本展示期間は、十一月十五日(日)～十二月十三日(日)のため、既に終了してしています。

十一月二十一日は波郷忌です。

石田波郷記念館では、毎年波郷忌に合わせ企画展を開催しています。

これまで、写真や句碑、揮毫や江東歳時記などを取り上げましたが、今年は、波郷にとって第三の故郷とも呼ぶことのできる「清瀬」をテーマに展示を行いました。

発行日 平成27年12月20日
発行元 江東区砂町文化センター
〒136-0073
東京都江東区北砂5-1-7
電話：03(3640)1751

「第三の故郷 清瀬」

草木瓜や

故郷の如き療養所

―療養所の風物は必ずしも私の故郷のそれに似てゐはしないが、そこへ惹かれるなつかしさは、故郷と同列のものである

(「吉村会」第三号 昭和三十八年八月「山鳩は鳴く」より)
波郷にとつての「清瀬」は、病と闘った療養の地というだけではありませんでした。

今回の展示では、昭和初期から現在にかけて「病院の街」として発展を遂げた清瀬市の歴史を古い写真などと共に振り返り、その中で、療養生活を送っていた波郷の文芸活動に

まかれていた合成樹脂球（ピンポン球）や、その影が映ったレントゲン写真などの大変貴重な資料を公開し、当時の人々がどのような方法を用いて結核と闘っていたのかについても知ることができるような展示となりました。

このように、多角的に波郷を特集したことにより、波郷ファンではないお客様にも多く足を運んでいただき、盛況のうち企画展を終了することができました。ご来場いただいた皆様、本当にありがとうございました。

◀会場の様子①



会場の様子② ▶
合成樹脂球と胸部レントゲン写真



江東区砂町文化センター 石田波郷記念館 企画展

石田波郷と清瀬

遠く病めば
銀河は長し清瀬村

会場 江東区砂町文化センター
石田波郷記念館・展示ロビー 入場無料

開催期間 2015年11月15日(日)～12月13日(日)
9:00～21:00 最終日は15:00終了
※11月16日・12月7日は休館です

◆主催：公益財団法人江東区文化コミュニティ財団
江東区砂町文化センター

◆〒136-0073 江東区北砂5-1-7 ◆TEL:03-3640-1751

◆祝日を除く第1・3月曜休館 ◆http://www.kcf.or.jp



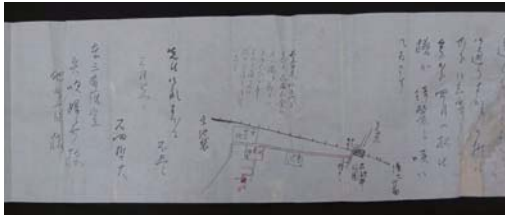
「午後の安眠時間。今日は辛いなせう」



▲病室の波郷

スポーツを当てました。

さらには、肋膜外剝離合成樹脂球充填術、通称「プロンベ」という手術によって波郷の肺の中に実際に埋め込



波郷が療養中に世話になった看護婦等へ当てた手紙
(東京病院OB会蔵)

今回の企画展では、ご遺族を始めとし、清瀬市史編さん室、清瀬市郷土博物館、公益財団法人たましん地域文化財団など、多くの方々にご協力をいただきました。また、会期中には東京病院OB会の川辺芳子先生(清瀬市川辺内科クリニック院長)にもご来館いただき、その際に、波郷が療養中に世話になった看護士らへあてた手紙や、直筆の色紙などの資料をお預けしていただきました。その手紙のものととの所蔵者であった方のお話によると、療養中の波郷は、大変寡黙な人物であったということです。

今回の企画展では、ご遺族を始めとし、清瀬市史編さん室、清瀬市郷土博物館、公益財団法人たましん地域文化財団など、多くの方々にご協力をいただきました。また、会期中には東京病院OB会の川辺芳子先生(清瀬市川辺内科クリニック院長)にもご来館いただき、その際に、波郷が療養中に世話になった看護士らへあてた手紙や、直筆の色紙などの資料をお預けしていただきました。その手紙のものととの所蔵者であった方のお話によると、療養中の波郷は、大変寡黙な人物であったということです。

募集 締切

第十五回 石田波郷記念
はこべら俳句大会

波郷をしのぶ「はこべら」俳句大会が、十二月十日をもって、締切となり、今年は三五二句の投句がありました。
ご応募いただいた皆様、ありがとうございました。

授賞式

平成 28 年 3 月 13 日(日)
午後 2 時から砂町文化センターにて開催。
授賞者の方には、2 月の初旬～中旬頃にご連絡申し上げます。

コーナー	展示物	所蔵
	直筆短冊:遠く病めば銀河は長し清瀬村	石田波郷記念館 蔵
	「父 波郷と清瀬の記憶」/「人間・波郷の眼」	文章寄稿 石田修大氏
	写真:石田波郷 (昭和23~25年頃 清瀬にて)	石田家 提供
	石田波郷年表	石田波郷記念館 作成
病院の街 清瀬	写真:清瀬村「志木街道」(昭和10年代)	伊与田昌男氏撮影 (公財)たましん地域文化財団所蔵
	清瀬の歴史	文章寄稿 清瀬市
	東京療養所配置図	石田波郷記念館 蔵
	写真:国立東京療養所退所風景(昭和20年代後半)	伊与田昌男氏撮影 (公財)たましん地域文化財団所蔵
	写真:国立療養所東京病院(昭和20年代)	清瀬市郷土博物館 提供
	写真:国立東京療養所(昭和20年代)	清瀬市郷土博物館 提供
	写真:傷痍軍人東京療養所外気舎(昭和15年)	清瀬市郷土博物館 提供
	写真:東京府立清瀬病院(昭和10年代)	清瀬市郷土博物館 提供
	写真:療養患者集合写真(昭和24年6月)	石田家 提供
	写真:波郷 退所前(昭和25年2月)	石田家 提供
	写真:東京療養所 寿康館(昭和27年 12月)	石田家 提供
成形	直筆色紙:「手術待つ胸病みつゝ 苺喰ふ」	石田波郷記念館 蔵
	波郷レントゲン写真 2種	石田波郷記念館 蔵
	合成樹脂球(ピンポン球)	石田波郷記念館 蔵
	処方薬	石田波郷記念館 蔵
	棟方志功板書版「胸形変」	石田波郷記念館 蔵
療養所内の交流	書簡:波郷から療養所の看護婦等に宛てたもの	東京病院OB会 蔵
	書簡:福永武彦から波郷の妻・あき子へ宛てたもの	石田波郷記念館 蔵
	書簡:結城昌治から波郷の妻・あき子へ宛てたもの	石田波郷記念館 蔵
	吉村会会報	石田波郷記念館 蔵
	惜命の杖(赤城さかえより)	石田波郷記念館 蔵
	療養所内俳誌「松濤」	石田波郷記念館 蔵
「惜命」	直筆色紙:「七夕竹惜命の文字隠れなし」	石田波郷記念館 蔵
	直筆短冊:花圃に水汲めるみてをり手術前	石田波郷記念館 蔵
	「惜命」点字本	石田波郷記念館 蔵
	「惜命」直筆原稿	石田波郷記念館 蔵
見舞妻 あき子	あき子直筆短冊:「ひとたひハ夫帰り来よ曼珠沙華」	石田波郷記念館 蔵
	あき子直筆短冊:「鶯やよきことのみを夫に告ぐ」	石田波郷記念館 蔵
	写真:妻・あき子と(昭和23~25年頃)	石田家 提供
	写真:妻あき子、看護婦と共に(昭和25年2月19日)	石田家 提供
	書籍:石田あき子句集「見舞妻」	石田波郷記念館 蔵
	石田あき子句集「見舞妻」直筆原稿	石田波郷記念館 蔵
現在の 清瀬	東京病院ニュース7号(2003年1月)より 清瀬の歴史「惜命の灯籠」	川辺芳子氏執筆
	写真:清瀬市 石田波郷句碑	清瀬市提供
	現在の東京病院内地図	東京病院ホームページより

砂町文化センターで2年ぶりに行われる主催講座と利用団体の舞台発表会です。
ダンスや音楽など様々なジャンルのグループが参加します。
どなたでも自由にご入場いただけます。



開催
予告

出演団体 あいうえお順

合唱団「砂」(女声合唱)

口笛サークル「砂町バンビ」

クラブドルフィンズ砂町(キッズダンス)

ケーナワイラデ砂町

こどもバレエ教室(主催講座)

成果発表会

平成28年2月13日(土)

3階 研修室

入場無料

砂町民謡同好会

ソウル&ディスコダンシング

トモ・ダンスサークル(社交ダンス)

プアナニ高橋ハワイアンフラ砂町

明星(大正琴)

ヤング☆ハワイアン(主催講座)

親子で 和風 作ってます!

砂町文化センター後期講座「親子で和風づくりにチャレンジ!」が11月7日(土)開講しました。

講師は日本の風の会会員 田淵和夫先生です。竹の骨組みに紙を張った伝統的な和風を、親子で協力して『世界に一つだけのオリジナル風づくり』に12組の親子がチャレンジします。

カリキュラムは全5回です。1回目は風の歴史や種類について、2回目は風の作製①(下絵を描く)、3回目は風の作製②(色付け)、4回目は風の作製③(組み立て)を経て、最終日の来年1月16日は、都立大島小松川公園で風揚げをします。現在、着々とオリジナル風の製作が進んでいます!

講師を務めて頂いている田淵先生のお話 「毎年、お正月に風揚げをしている姿があまり見られなくなり淋しく感じます。これを機に、日本の伝統文化のひとつである『風』の魅力子どもたちに末永く伝えていきたいです。」



柳家 山三治 一門会

人間国宝 柳家小三治がまたまた砂町にやってきます！

平成 28 年 2 月 18 日 (木)

18 時 30 分開場 19 時開演

砂町文化センター 3 階研修室

残席僅か

全席指定

- 一般 3,800 円 当日各 200 円増
- 友の会 3,500 円 ※6 歳から入場できます
- シニア (60 歳以上) 3,600 円 ※割引の併用はできません

チケットのご予約・お問合せ ☎03-3640-1751

休館日 ●第 1.3 月曜日 ※祝日は開館 ●年末年始 12/29 ~ 1/4



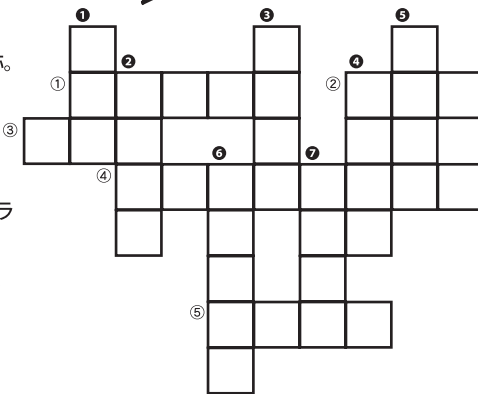
すなまち クロスワード 第3回

よこ

- 砂町文化センターの正面にある銅像の名称。「○○○○○軍次先生」
- 砂町文化センターのとなりの公園の通称「○○○公園」。
- 当財団が発行することも向け情報誌のキャラクター。
- 砂町文化センター 1 階ロビーにある銅像のタイトル。(むずかしいかな...?)
- 忘年会シーズン。出番の多い交通機関。

Let's Challenge!

砂町や江東区についてのクイズが入っているよ!



たて

- JR 東日本の IC カードは「スイカ」。JR 西日本は?
- 砂町銀座の東に位置する南北に走る大通り。「○○○○通り」
- 満足であること。または満足な状態にあること。「○○○○だね!」
- 「おくのほそ道の旅に出た俳聖。「松尾○○○○」
- 昔砂町地区では「○○○○ねぎ」が栽培されていた。
- 砂町文化センター恒例冬のイベント「○○○○フェスティバル」
- 砂町ゆかりの俳人、石田波郷さんが入院した国立東京療養所の所在地。



★こたえはこのページ下です

地域コラム

砂町をめぐると都営バス

第3回 秋26系統 秋葉原駅～葛西駅

今や国際的な観光スポットとなった、秋葉原と地下鉄東西線の葛西駅を結ぶ秋26系統、今回の砂町をめぐると都営バスの第3回目はこの系統を走るバスのお話です。

砂町文化センターの南、砂町銀座を横切り清洲橋通りに出た所に北砂4丁目のバス停があります。

江東区を東西に移動するバスは少ないことや、意外とこのバス停は文化センターに近いので、秋26系統を利用して来館される方も多いようです。比較的長い距離を走る系統のため、定時運行が難しい系統だった時代があり、朝の通勤時間の葛西橋の渋滞は酷く、秋葉原から来たバスを旧葛西橋で折り返して、ラッシュに対応していました。現在は南側の清砂大橋が開通し、旧葛西橋始発のバスも必要が無くなったようです。

この系統や前回にご紹介した両28系統には、

CNGノンステップバス*という屋根に大きなカバーを載せたバスを見かけることがあります。

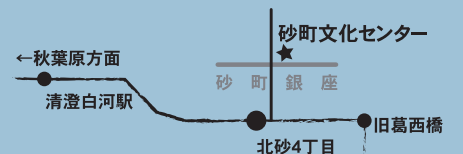
これは軽油を燃料とするディーゼルエンジンの通常のバスとは違い、圧縮天然ガスを使って走るバスです。屋根のカバーにはガスタンクが入っています。排気ガスなどの環境負荷が低い低公害バスとして導入されましたが、現在は通常のディーゼルエンジンの性能が向上し、都営バスでは導入されなくなってしまい、今年も8台が除籍(廃車)となりました。ガスタンクの法令の関係で他のバス会社で再起する可能性が低く、残った30台ほどあと数年で全車が引退する予定です。

身近に走っている、実は貴重なバスに注目してみるのもいかがでしょうか。

*CNG: Compressed Natural Gas (圧縮天然ガス) の略



後ろよりの大きなカバーがガスタンク



秋26 秋葉原駅～葛西駅
最寄バス停 北砂4丁目

葛西方面→

すなまちクロスワード こたえ

【よこ】① こまつぎき ② ばなな ③ こかる ④ はくうんきょらい (白雲去来) ⑤ タクシー

【たて】① イコカ ② まるはち ③ できげん ④ ばしょう ⑤ すなむら ⑥ ウィンター ⑦ きよせし